

学校教育目標		総合評価				
「花とみどり笑顔の学校」～あふれるあいさつ かよいあう心～		活動の広がりとともに子どもたちの笑顔も広がり、今を精一杯に取り組む姿が多く見られた。その中であって、満足しきれない子どもが見られるのも事実である。さらに一人一人に寄り添いながら未来につなげる見通しをもって、全ての子が輝く活動を展開していけるよう、日々の授業を充実させていく工夫をしたい。				
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 「今の努力が未来に続く、今を精一杯」						
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策		
よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」 ・教師は、子どもが他者とつながることをサポートしたり、子どもと関わり合ったりすることができたか。		コロナの影響もあり地域の方々との関わりが難しくなった。子どもたち同士が関わって学び合う活動を工夫した。	B	地域の方々との関わりを模索しながらも、子どもたち同士の関わりを広げることがメインに活動を工夫していく。		
よく学び…「思いや考えを伝えよう」 ・教師は、子どもが目を輝かせ、思考力・表現力を高めていく授業を行うことができたか。		黙々と真剣に取り組む姿が多く見られているが、子どもたちが自ら考え深めていく学習にまでは至っていないことがまだまだ多い。	B	より主体的な学びから思考力や表現力を高めていくことができるように、子どもの願いや問いを大切に授業を工夫していく。		
よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」 ・教師は、ハッピータイム等で子どもたちと一緒に遊び楽しむことができたか。		ハッピータイムの時には、教師も子どもたちと一緒に遊ぶことができた。	A	けがに気をつけながら、継続していく。		
領域	重点	評価項目	評価の観点			
学	よく れ あ い	「多様な他者とかかわり合う場」の確保	地域の様々な大人と関わり合う場を確保し、地域のもてる力を有効活用しようとしている。	感染防止のため、地域の方々との関わりをもつことがほとんどできなかった。	C	花壇整備など外活動を中心に地域の方や保護者と関わる活動を取り入れる工夫をする。
		「地域の多様な人々と子ども、子どもたち同士が関わり合う時間」の確保	地域の様々な人々と友だちと関わり合う活動を大切に活動を展開している。	例年のように地域の方々との関わりが出来なかった分、子どもたち同士が関わることを大切に活動した。	B	子どもたち同士の関りの広がりから、地域の方々との関りへと目が向いていくような活動の展開を工夫する。
校	よ く	「算数・外国語・UD・MIM」を中心とした授業改善	全職員が専門派遣講師による授業公開や教材研究を通して、授業改善を図ろうとしている。学習活動を通して、児童の「喜びをもって心身を躍動させるエネルギー」や「自ら学ぼうとする意欲の強さ」を向上させようとしている。	はじめは臨時休業による遅れを取り戻すことに精一杯であったが、研究部会や授業公開を通して授業研究を行い、授業改善に少しずつ取り組むことができてきている。	B	無理なく授業を見合うことができるよう、1時間通した授業公開でなく、授業の部分を見合う機会の設定や授業改善を広く発信していく工夫をする。
		「北小学びのスタンダード」(全学年共通で身につける学び方の基本)の推進	教師の指導がなされ、以下のことができている。 1 話す人は一人。 2 呼ばれたら「はい」と返事をする。 3 相手に顔と体を向ける。 4 相手に聞こえる声で終わりまで話す。 5 相手が話し終えるまで聞く。	常に意識し、必要に応じ確認してきたことで、身につけてきている。学習規律としても定着が図れてきた。子どもたち自身で注意ができるようにもなってきている。	B	単なる注意で終わるのでなく、授業の活発化を促す言葉となるよう、さらに工夫していく。また、対話による学習が深められる場を設定することも行っていく。
育	よ く 遊 ぶ	総合的な学習の時間・生活科の学習の充実	教師は、子どもが探求的に学ぶ活動を構想し、課題解決力を育てようとして指導している。	子どもの願いをもとに探究的に活動する姿が見られた。	B	子どもの願いを大切に活動の展開を、さらに工夫していく。
		「ハッピータイム」(外遊びの日)等の充実 自主的活動の時間の確保	教師は、子どもと共に遊ぶ等、子どもが外遊びに進んで取り組むような働きかけをしている。休み時間が、遊びや、児童の自主的な活動のための時間となるよう指導している。	教師も一緒になって大勢で遊んでおり、楽しみな時間となっている。子どもたちが自分たちで考えた遊びを提案して楽しく遊ぶ姿が見られている。	A B	子どもと共に遊びながらも子どもの姿を見つめることも大切にし、遊びのメンバーが多様化するよう工夫していく。
学 校 運 営	保 護 者 と 地 域 の 連 携	情報の発信	学校(学年、学級)は、教育方針、取組やその成果、連絡など、必要な情報を発信している。	学年だよりは毎週、学級・学校だよりは必要に応じて発行することができた。	B	さらにタイムリーかつ効果の上がる情報発信を工夫していく。
		P T Aやボランティアとの連携 家庭学習の充実	学校は、P T Aやボランティアとの連携を十分行っている。 学校は「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。	メールでの連絡体制を整えメールのない方には電話や通知文で連絡するようにした。臨時休業での取り組みもあり、家庭学習が習慣化してきている。	B B B	少しずつボランティアの願いを増やしていく。 「紡ぐ」を通した言葉のやり取りも大切にしていく。